

令和4年度 南房総市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和4年11月25日（金）午後4時00分開会～午後5時06分閉会

2 場 所 南房総市役所本庁舎 2階第2会議室

3 出席者 市長 石井 裕  
教育長 三 幣 貞 夫  
教育長職務代理者 小 宮 忠  
委員 岡 崎 俊 明  
委員 庄 司 美 佳  
委員 石 井 美 智 代

4 事務局 教育次長 水 島 孝 夫  
参 事 安 田 道 明  
教育総務課長 庄 司 武 史  
学校再編整備課長 黒 川 秀 和  
子ども教育課長 長 谷 川 鶴 人  
生涯学習課長 加 藤 勉  
教育総務課課長補佐兼総務係長 宇 山 尚 希

5 開 会 水島教育次長が開会を宣言

6 市長あいさつ

7 協議・調整事項

南房総学について

・安田参事が配布資料の概要について説明。

(自由討論)

石井市長

それでは私が進行役だということですが、南房総学がどんなことかということは、大体今までもご承知だと思います。今説明があった通りですが、この広がりについて課題もあるわけですが、市の方向性としてはさっきご説明の中にあつたように、小学校の低

学年にも少し広げながら、拡充を図っていきたいというふうに思っているところです。これは自由討論ということなので、皆さん方からご意見がございましたら、お願いします。

#### 庄司委員

南房総学で例年2年間クジラの解体の見学をやっていましたが、この2年間ちょっと不漁というのと、あとタイミングが合わずに開催することができませんでした。申し訳ないと思います。やはりその大きな10m級の哺乳類が子どもの口に入る、食材になるまでの命の授業というか、五感を通して、解体するときの音とか匂いとか、直接触れてもらうので、そういうものはやってもらいたいと、昨年のこの会議で石井委員から、地域を超えていろんな子どもたちに見せてとおっしゃっていたので、今年は富山学園と連携してやる予定でしたが、それも駄目になってしまって、ですが来年はそういう条件をクリアしながら、何とか繋げていきたいと思っています。ただ和田町でやっていたときは、保護者の方が何時解体でも連れてきてくださいました。だけど今は学区が広がり、いろんなところから来るとなると、もう朝4時解体だからその時間に来てくれてと言っても、いろいろ難しい課題がありまして、その辺をどうするかと、こちらも自然相手なので前日にしか予定を組めないですし、その辺がちょっと課題ですが、ぜひ南房総では鯨を見ている、内房ではあまり知らないという子どもたちもいるかもしれないので、そういったものを広げていききたいなと思ひまして、何か一発目にすいません、お話をさせていただきました。

#### 石井市長

そのときの条件によってできるときできないときがあるのは、致し方ないかなというふうに思いますが、さっき話があった、他学区に広げていくというようなことに関して、ある意味ではいろんな学校が毎年どんなことやっているかという、こういうデータ的な資料はあるわけでしょうから、富山学園が和田の方にアプローチして、和田の方ではこんなことやっているということは、他校の様子を見ればわかるわけで、要はそういう状況の中で、連絡の取り用もきっとあるだろうと思いますし、あと諸条件は仕方ないところではあると思います。

#### 庄司委員

その代替事業として、昨年嶺南小学校の方には、解体はないですが、解体場に来てもらって、そこの大きなまな板になるところに、包丁の傷跡とかついているので、そういったものを見てもらって、街中を歩いて、WAOの骨格標本を見てもらうみたいな、そういう和田町探検みたいなのをやってもらって、ちょっと好評だったので今年もこれから嶺南小5年生でやる予定です。あと富山学園でも房総の捕鯨の歴史とか、民俗学みた

いな座学をやる予定になっています。

石井委員

先生が資料で房日新聞ですとか、メディアの資料いっぱいつけてくださいましたが、他の地域いいな、こういうことやっているのだなというのがわかりますが、子どもってなかなか新聞ですとか、自分の用で忙しいので、例えば、個々に活動しているので、今、電子黒板とかあるので、リモートで繋いで、まずは自分の地域の自慢をし合ったりとか、そういうことでこういうことしているのだなという情報が交換できたりとか、そこいら辺からどうですかね。

石井市長

今話にあった電子黒板は、そういうようなふうにもできますか。

安田参事

できます。

石井市長

そういうことができるのであれば。

石井委員

場所は移動しなくても、学校自慢から初めて地域自慢で、富浦はこういうことをしている、和田はこういうことをしているというのを、よかったら鯨の匂いを嗅ぎに来てくださいと、興味を、想像膨らまして、そういった座学で、体験はできないけれども、体験の方は大房岬さんとか、あとはJ A安房さんですとか、他社の力を借りて、先生も勉強しちゃう。なるべく先生の負担にならないように、移動とかって結構大変なので。ここで一覧になっているところで、他の学校いいなみたいな、そういった部分もあるので。

岡崎委員

ちょっと質問ですが、今J A安房さんの南房総学の体験学習はどんなものがありますか。

石井委員

例えば梅干取って梅干しを作ってみるとか、あと枝豆を作るところから収穫までとか。

岡崎委員

そういうのもJ A安房さんで企画してやってくれる。

石井委員

富山の方がしているみたいです。

岡崎委員

だけどそれはそういうふうにもいろいろな大房岬のことも書いてありまして、庄司委員からもございました、今石井委員からもあった、それぞれいろんな場所でいろんなことをやっていて、これはぜひ他の地区の人にも、子どもたちにも体験してもらっていいのかなというのがあると思うので、それを資料化、リスト化といいますか、まず各学校の方に流して、電子黒板を使って、事前学習みたいなので使えば、そういうのを使ってみると、広がりができるのかなと。

石井委員

自分のところは例えば自慢するとなると、子どもたちの励みにもなると思うので、南房総学というのは子どもたちの心を耕すような授業だと思っているので、心を耕し、体験や経験を増やすと、感動する場面というのが将来増えてくると思うので、そういった心を耕す的なところで頑張ってもらえればなど。

岡崎委員

以前は教育の日の中央行事に、活動の発表をしていましたよね。生き生きとした発表をしていましたが、ああいう場がなかなか今出来ないで、そういうものも、例えばですが、リモートでいろんな学校に発信してとか、校内でも結構ですが、他の学校とかにお話し、効果はあるかなと。

石井市長

基本的には担任の先生が、何をやろうかと考えるということになるわけですか。

安田参事

主とするとそうですね。学校として教育課程を作るときに、1年生はこういうテーマで勉強しよう。具体的にその狙いを達成するためには、どういうところに行つてとか、どういう人を呼んでとか、それを担任とか、該当学年が考えています。

岡崎委員

具体的にこの大房岬自然の家のプログラムは、学校の方で導入していけそうなレベルにまでなっていますか。

安田参事

そうですね。

岡崎委員

ぜひそれは全ての学校が一度は大房岬自然の家で、体験活動できるような仕組みになってくれればと思いますね。

石井委員

ちょっと質問していいですか。どの学校の小学生も、例えば大房岬で宿泊学習をしていますか。

安田参事

そうですね。今ちょっとこの状況下ですから、宿泊をせずにただ体験しに行って日帰りという学校もありますが、ほとんど利用していると思います。

石井委員

富山で言ったら、コロナで修学旅行に遠出ができないところは、修学旅行の部分を大房に預けて、これは子どもたちも保護者にも評判が良かったです。なかなか海の近くにいるようで、海に行かないし海のことを知らない、遊びも知らないと。

小宮教育長職務代理者

南房総学で、体験するということが、かなりの部分を占めているのかなと思います。例えば5年生になったら、鯨の解体を見せてもらって、そこで食べて、いろんなお話を聞いてというようなことがあって、学年が変わるごとにいろいろな体験ができるという。これはどうしても必要だし、大切だなとは思いますが、別な視点から1年生からは無理だろうと思いますが、例えば中学に入ってからでも、学年の枠を払ってしまって、体験だけじゃなくて、追求するという。そういう形の南房総学が実施できないかなと思います。でもそうなる今この時間ではとても足りなくなるなという気はしますが、例えば体験したことを元に、もっと鯨のことを知りたい、中学行ってもずっと鯨を調べたい、というような子が出てきてくれたら余計嬉しいなと思います。あるいは富浦で他のことはいいから、びわだけずっとやっていたいと。ここに今いっぱい資料があって、断層を調べているようなところもあります。海岸段丘だとかそういうようなところを見たら、地層に興味があってというような、そういう追求型のものがあって、学年の枠取ってしまっているようなことが、もう南房総学は結構何年もやってきたので、そろそろそういうのが生まれてきてもいいかなという。そうすると、また全体を構想する先生の仕事が大変になりますけども、その中から、何とか博士みたいなのが生まれてきたらいいなという気がします。

安田参事

テーマをこちらから与えてそれに沿った学習を積み重ねていったその先に、今度は自分でテーマを決めて、今小宮先生おっしゃったように追求させるという、非常に重要だと思います。それがやりたいです。そのためには、たくさんの先生がいて欲しいです。それは学校の教員だけでなく、地域にいらっしゃるいろいろな大人、あるいはちょっと先輩、そういう人とも繋ぐことによって、例えばこれだったらあの人に聞けば良いということを知っていれば、それで時間のロスを防げますし、移動してその方のところに行かないといけないという場合にはスクールバスがありますし、いろいろな方の協力があれば、実現は可能なのかなと。そういうことをすることによって、南房総のことを

もっと知りたい、南房総の人を知る、もっと好きになる、良い循環が生まれるのかなと思います。先ほどのリモート学習なんかも、非常に良い手段だとも思います。学校の教員は、教員が何かを作り出して指導するというよりも、繋ぐという、そういうふうに変化が来てきているのかなと思います。

#### 三幣教育長

例えば中学3年では、総合的な学習の時間が年間70時間ありますから、その中で例えば中学3年生の人が誰もが、いわゆる卒論、自分でテーマを決めて、70時間の全てじゃなくても、この年間通して卒論を仕上げるといような、学習の集大成になっている。目標としては、行きつく先としては当然あり得る話だとも思いますので、可能な限りというか、いずれそういう方向に持っていきたいとも思います。探求型学習というのは、高校入ってからでも大事なことになるので、中学生もできると思います。

#### 小宮教育長職務代理者

そのときにゲストティーチャーみたいな、地域の先生方のメンバーの名簿があって、リストがあって、そういうリストを各学校が共有して、そうすれば地域にこだわらないで、少しは広がっていくかなと思います。もう既に持っていますかね。

#### 安田参事

自分の学校を拠点として、学校の周りについては、もう昔からの方々ということで、リストはあると思いますが、ただやっぱり白浜の学校の先生は、富山にどんな人がいらっしゃるのかということを知らないと思います。

#### 庄司委員

毎月発行される公民館講座の南房総のあれにたくさん講座があって、平日の講座が多いので、お子さんが参加できるのはちょっと少なかったりもしますが、土日にハイキングで史跡巡りとか、いろいろあるので、そういったところの講師の方が入っていますし、そのリストを参考に生涯学習と絡めて。

#### 三幣教育長

今の内容は生涯学習課の加藤さんの方でございますけども、夏休みに子ども向けの講座がありますよね。そういうのをまたその方向で見直していくということと、もう一つは富浦ウォッチングともう一つ土曜学校で、ちょっとそれが講師等の関係で行き詰まりを感じているところもありますので、そういうものを今お話があったような内容に変えて、学年を超えて、学校を超えて、公民館で希望者を集めてやっていくということも、学校教育だけではなく、具体的に考えていきたいとも思います。

#### 庄司委員

そういう方のほとんどが、子どもからもらうエネルギーが生きがいとかになると思う

ので。

岡崎委員

総合的な学習の時間に位置づけるということだとすると、70時間全部学校でやらなくても、夏休みとかそういった休みの日とかに出たときに、総合的な学習を学んだということで、カウントしていくことが可能ですか。

三幣教育長

70時間のうち18時間ぐらいは学校の教員がやらなくても、他のものを行ったことで、カウントできるようになってきますので、教師の負担の軽減にもなるので、その方向で学校はやららなくてずっと呼びかけています。極端に言えば朝学校からスクールバスで大房に送り出して、あとは行った先で講師がやってくれて、終わって帰ってくる。それでも事業としてカウントできるという。そういうことで進めています。

岡崎委員

子どもも学べるし、学校の教員の方もその分負担が軽減されますし、他50時間とか授業時数の関係で、週に何時間か5時間で終わる日があるわけですよ。それを推進していく。18時間だけですか。

安田参事

大体全体の3分の1ということで。

三幣教育長

通知で出ているので、その辺は拡大解釈しても、学校の校長が判断していけばいいことだと思います。

石井市長

あんまり細かいことがわからなくて、今のお話ってつまりその18時間は、外で体験的なことをやる時間があるよと。

三幣教育長

品のない言葉で言えば、丸投げできるという。

石井市長

残りの52時間は外で体験というのではなく、先生方が組み立てたものでやるということ。

三幣教育長

そういうことです。

石井市長

というと大変ということにはなかなかならないよね。先生方が組み立てて自分でやるということ。実はその18時間をどう使うかって話ですよ。

## 安田参事

その70時間の全て学校の教員が関わるというのもOKです。70時間を体験中心で例えば60時間体験活動に使いますが、学校の考えでOKです。ただ70時間のうちの18時間はもう学校の先生はその現場にも行かないし、もうお宅に預けるので3日間面倒みてください。ただ、それで18時間カウントしていいということなので、授業やったことになるわけです。そうするとその18時間は教員が関わらなくても、いいという。

## 石井市長

でもだんだんそういう地域の中で、そういったことを指導できる人やプログラムがどこにあるかということは、毎年蓄積されていって、それがきちっとデータ化されていけば、それを重ねていくということは、今までも積み重ねがあるわけですけど、これからも広がり出てくるでしょうけど。

## 三幣教育長

今月嶺南小の子どもたちが5年生だったかな、間宮七郎平の勉強に出かけているということとなっているので、行った先の講師がどなたか対応してくれると思いますが、そういうものが、今度は千倉小の子どもたちとかも同じようにやっていくことも可能になってきますから、学校もかなり努力して、ある程度考えていますので、最初に話があったものをデータベース化して、それぞれがどんどんやっているかというので、見てわかるようになれば、各学校もいろんなものが入り入れられるようになってくると思います。あともう一つは、オンラインでやり取りするような仕組みも考えますし、もう一つは、映像としてデータ化して、それをタブレットで子どもたちがいつでも見られるような、そういう仕組みが必要かなと、それでその映像で見たものではなくて、やっぱり最終的には、直接体験するような仕組みにしていかないと、映像だけでは他と同じになってしまうので、映像で関心持って、直接それを見る・体験できるというところまでいかないと、南房総学にはならないのかなというふうには思いますけど。

## 石井委員

南房総学で最近聞くような言葉ですが、もう南房総学で学んだ子たちは、30歳にはならないけど、20歳前半ぐらいの子たちがやってきているはずですよ。そうすると、例えば問題解決を将来考えてくれたりとか、あとは外へアピールして、外に出たときに、南房総市に人を、いろんなこういうところがあるよってアピールしてくれたりとか。将来ももっとも可能性のあるような気がする。理想論ですけども、人材を育てるじゃないですけど、そういうことにも繋がっていけばいいなって思います。もう給食の面では、この間、教育の日の作文でも、もう子どもたちが十分伝わっているというのがよく

わかりましたし、もうちょっと総合学習的なところが身になっていけばいいなと思っています。

#### 庄司委員

成人式の人たちに事前に南房総の自慢みたいなこういった作文なり、何か自分で映像も入れて、パワーポイントか何かでゲームを作って、レポートみたいな提出をしてもらって、その内誰かにその場で発表してもらおうとか、なんか難しいですが。まだ20歳前後だと地元の良さが、1回出た子たちって本当、南房総市の良さがわかるという、うちの子たちもそうですけど、もう本当大好きなので、いろんな良さがいっぱいあるってわかった時点で、そういったものを何人かでいいからまとめてくれたりとかすると、素晴らしいですね、理想ですけど。

#### 三幣教育長

教育にはエビデンスがないのはそれですが、富山中の時3年間、富山学をやっている、その子たちが帰ってきている割合が非常に多いような気がします。残念ながら気がするんですけど、今年やっているあの自然体験南房総学というのを鹿屋大学の教授だったかな、それと大阪体育大学の先生が2人共同で、南房総市のやっている南房総学がどれだけ生徒に子どもたちに、心の変容を出して、それでその後帰ってくるとかそういうものについて、これから3年間、実際にこっちに来てくれて研究していくということで市長にも相談して、1年間100万程度、鹿屋大学とか大阪大学がこっちに来てとか、そういうお金がかかりますので、それでも既に10月に学会で野外体験学科ですね。そういう学会で発表したりしているので、だからデータを出していただくと、この南房総学、あるいは体験学習のそういう効果がどんなふうに出てくるかというのが、実証的に明らかにされるのではないかなということも期待しています。それをもとにまた方向性が決めていけるのではないかなということも期待しております。お金がないところで、非常に出していただくということで。

#### 小宮教育長職務代理者

南房総の自慢ができるというところで、自慢したらそれをいいねって言ってくれる人がいないと、自慢のしっぱなしで、空振りになるかと思います。だから自慢を聞いた方が反応してくれるという状況。例えば、今タブレットでは、自分がやったことを発信するという事は可能ですか。まだそこまでは。

#### 安田参事

難しいと思います。

#### 小宮教育長職務代理者、

非常に危険なこともあるから、怖い面もありますよね。私達は今、理想的な内容だけ

を問題にして、挙げているけども、何でも発信できるとなれば、好ましくない内容もどんどん広がっていくということも考えられるので、その辺は非常に心配しています。例えば南房総学をやって、それを発信したときに、連携をしている他の学校と他県の生徒からいいねという反応が来たとか、ということで自信がついたり、喜びが増したりしますよね。あるいは他県まで行けなくて他の中学生だっていいですよ。そういう活動があれば、自分でやっていることが認められて、さらに次への意欲が生まれてくるのかなという気がします。

安田参事

実際に、プログラミング学習の一環で、子どもたちが自分のホームページを作って、そこに地域学習で学んだことを自慢するというか。こういう勉強を僕はしました。探究活動としての成果をそこに上げていろんな人に見ていただくということ、八丈島の黒砂砂丘を題材にした地域学習をして、その結果を自分のホームページにいろんな上げていますが、全国の子どもたちが見たりとか、長野県のそういう自然に関する勉強している中学校が同じようなことやったりとか、ICTを使った発信ですよ。過去調べ学習というと、発表会をして終わりだったじゃないですか。それをもっともっと今の技術を使って、もちろんお金がかかることですが、そういった取り組みをしているところも結構増えてきました。

岡崎委員

先ほど教育長さんおっしゃられた鹿屋大学とか他県の研究者が本市の取り組みを知って、調べてみたいと思って、もっときっかけはやっぱりどっか学校のホームページか何かで、あるいは本市の市のホームページですよ。その南房総学の取り組み状況をキャッチして、調べてみますってことになったのですかね。

三幣教育長

そういう学会か何かの集まりのところに、富山学園の先生が言って、富山学園の取り組みを、その自然体験とかそういう体験学習の取り組みを発表したら、そこにいたその2人先生が非常に関心・興味を持ってくれて、ぜひやりたいということで2年ぐらいやってきて、それを今度はもっと学会できちっと発表できるような形にしようということで、取り組んでくれるということで。

岡崎委員

富山学園の先生が学会で発表したのですか。

三幣教育長

会議かなんかちょっと定かではありませんが、いわゆるそういうような集まりで。

岡崎委員

もうそれすごく大事なことです。こうやって情報発信する小宮先生おっしゃられた、自分たちがプログラムするってことももちろん大事ですが、いろんな機会を外へ発信することができる、南房総市の良さというのが十分伝わるのかなと。

三幣教育長

7月に岡崎市、名古屋の方3市を修学旅行の勧誘で、それで回っていましたが、岡崎市の教育長さんが、富山中の中学生が大房の地層がはっきり見えるような、海から見えるようなところで、子どもたちが非常にいい顔をしていて、カヌーみたなのに乗って、そういうような表情というのを見せている写真を何枚か資料として持っているから、これがいいのだと。理科の先生でしたが、この地層があって、この生徒たちの本当の生の姿という、この表情がいいですねということで、非常にそういう学習に興味をもっていたので、もしかしたら2年ぐらい先にこっちに来て、そういう学習をしてくれるかなという。もう一つの資料は2年ぐらい、来年ぐらいには1校だったのがもう1校、2校増えるかなというのは、そういうような広がりがあるって決まってくるような可能性があります。

石井市長

どうしても予算的な問題もありますけど、それは鹿屋大学については、形になるといいですね。いわゆる体験活動の効果が少しでも見える化をして、みんながわかりやすいような根拠立てができる、と今後の取り組みを促進されるでしょうから。さっき参事が言った、プログラムというかホームページを作って発表するというのも、一つのやり方としては面白いよね。ホームページというのはプログラムなんかの入口みたいなものだ。でもまたそういったことをやって、そういうことに関してまた関心を高めてもらえばいいけど、でもそれをやろうとすると、また先生方がそれを指導するって話がね。

安田参事

具体的なところについてはわかりませんが、今非常に企業と連携して、企業の方で教員に負担をかけないように、子どもたちの指導ができるようなプログラムを作っているところも増えてきました。

三幣教育長

一番基本的なところでは、1校での年数を長くして、ですから富山学園は、4年ありますので、来年は何しなくちゃいけないとか、そういう何か追い込まれたことがあります。嶺南小学校は5年ありますので、5年間で毎年同じことはやっているけど、それでいろんなアイデアを出して、毎年積み重ねていって、こういう効果を期待していきたいと思います。2年ぐらいで交代すると、なんもしないで終わってしまうので、その辺は極力長く校長をおいて、いろんな情報が入っているいろんなことをやっていくような体制

はそういう面からも支えていきたいと思います。

庄司委員

日々の学習ということで子どもたちは自学という勉強、宿題を長くやっていると思いますが、だんだんとその自学が1ページを埋めればいいやみたいな、そんな感じになっていますが、そこがすごくもったいないなと思って、もう同じことをやるのであれば、本当に興味関心がある、先ほど小宮委員がおっしゃったような追求型の調べた学習をもっと深く掘りしていく、そういった時間に充てられたら、そういう自学ノートが、何冊も増えていけば、そのテーマの博士くんになっている。加えて、例えばその自学の取り組みの仕方を、担任の先生の指導方法を、こんなことやってみたらというふうに。

石井市長

それは結構先生の指導力に関わってくるのかなと。率直なところ。

三幣教育長

多分庄司さん意としてなかったと思いますが、この前安房高が探求学習を学生の塾にお願いしようかという話を、やっぱりそういうような指導に長けたノウハウを持った人たちにやらしてもらわなくちゃいけないのかなという。ですから、さっき卒論の話しましたが、そういうまとめ方とか決め方とか、そういうものもやっぱり教員全部できるわけではないですが、そういうところをお願いしていくことも考えていかないといけないのかなと。なかなかあれもこれもというのは、教員も全てやることは無理なので、そういうものは専門的なノウハウ持っている人たちに任せるような方向で考えなくちゃいけないのかなと思います。総合的な学習の時間等もできて、もう10何年ですから、効果のでないのは指導側に指導者がどうしていいかわからないというところがあるので、それは何とか。

石井市長

その時間をどう有効に生かすかというのを言えば、やっぱりなかなかわかりづらいというのが、どうその時間に対して組み立てたらいいかわからないというのが、やっぱり難しいですか。何となく素人なりに思いました。

小宮教育長職務代理者

南房総行ったら面白い教育やっているよということで、若い人が移住してくるべきですね。

安田参事

もうそれこそ地域総出で、寄って、たかって、子どもたちを鍛えるという、そんな構えでいけば、学校がちょっと手を挙げて、こんなことやりたいですが、どっか教えてくれませんかと言ったら、あそこがいますという、そういうところが作りたいですよ

ね。

石井市長

これなんか意見取りまとめるの。

安田参事

いや、特に。

三幣教育長

いろんなヒントをいただきましたので、どこまで実現できるかわかりませんが、や  
っていきたいと思います。

## 8 閉 会 水島教育次長が閉会を宣言